

(全般モニター使用) 皆さん、こんにちは。本日最後の登壇となりました。ただ今議長の登壇の許可をいただきましたので、これより3番上田雄一の一般質問をはじめさせていただきます。モニターをお願いします。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで、通告をさせていただいております。主な中身としましては、1つ、「まちづくりについて」2つ、「スポーツ振興について」というような大項目をあげさせていただきます。主な中身については、武雄市図書館について、新幹線について、スポーツ振興につきましては武雄中学校の改修計画について、競輪事業について、これはBMX等も絡んできます。早速質問に入りたいと思います。

まず、武雄市図書館についてでございます。武雄市図書館については、これまでも数名の皆さんが質問をされておまして、今までで、1日1,500人から7,000人程度の来館者があると。既にこれまで20万人を超えているという話をいただいております。

ただ、午前中の話にも出ておりましたけど、いろんな見方があるんじゃないかなと思う中で、私はこの武雄市図書館ですけれども、駐車場が不足しているのが、ちょっといろいろ来館者の皆さんに迷惑を掛けているんじゃないかなと思っております。これがですね、武雄市の図書館前の駐車場になりますけども、私も毎回、行くたびにこんな状態です。全く停めれるぐらいのスペースがないような、これも行ったのが夕方過ぎだったんですけども、その時点でも、まだまだ満車ということで、これがですね、当の図書館を——周辺を写した、なんちゅうんですか——航空写真になりますけれども、ここが武雄市図書館の駐車場になります。で、その西側に車を止められるスペースがありまして、これが大体メインで使われているんじゃないかなという感じではおるんですけども、来館者が多いときには、例えば、武雄市文化会館の駐車場も利用されているんじゃないかと。これが白岩運動公園の駐車場になりますけど、ここも使われてるんじゃないかと。開館当初はここも使ってたと思っております。さらには、こっちの競輪場の駐車場ですね。図書館を中心にこのような駐車場の配置——配置というのもおかしいですけど、このような駐車をできるスペースを利用しながらの、図書館運営に至っているんじゃないかなと思ってますけど、現状の駐車場の状況、利用者の状況等をまずは伺いしたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

#### ○古賀教育部長〔登壇〕

(モニター使用) 武雄市図書館につきましては、非常に利用者が多くございまして、駐車場につきましては、非常に不足しているという状況でございまして、市が所有する文化会館、白岩運動公園、こういった先ほどご紹介のあったですね駐車場について利用させてもらっているという状況です。

それから、ごらんになっているのが、武雄神社前の駐車場なんですけども、センターがち

よっと広うございますので、区画線を6月3日に引きました。普通車を6台、軽自動車用を10台と、真ん中に引きましたので、非常に停めやすくなったのではないかなと思っているところでございます。

駐車場につきましては、先ほどおっしゃった通り、全部で600台ほどの確保はございますけれども、それぞれ用途がございまして、事業が入っている時には使えない部分もございまして、その日その日によってですね、使えるところをフェイスブック等でお知らせをしたりということをやっているところでございます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

実はですね、通告の締切が5月の下旬でしたので、先ほどの話ですね、武雄神社の前の駐車場の所、この線を引いたらどうですかという話をしてたら、6月3日に引いていただいたところですね。これが今の図書館ですね。その北側の駐車場があって、今、線を引いていただいたという駐車場が、この駐車場です。私も6月3日に撮りに行って、確かにきれいに引いてあったので、よかったですねということではあったんですよ。

今回、それに付随してですけど、さっき部長答弁の中の写真にも出てきてたんですけど、この黄色い部分、ここの部分が、私は見るからに、つぼがした方がよかつちやなかろうかとは思っておったんですよ。よく見ると、部長答弁の中にありましたけども、段差があるというところがある、既に出てきています。ここですね。実際、見るからに、ここを駐車場にするとすると、かなりの台数、要は、これだけのスペースぐらいは取れるわけですよ。かなりの駐車スペースを、ここにも確保できるんじゃないかな、ということがあるんですけど、よく見るとここは結構、いろいろ整備もされていますし、難しかとかなーと思いつつですね。これが図書館側から見た側ですね。武雄神社からすると、結構段差が、図書館のほうに低くはなっているんですけど、スロープ的な感じでやれば、どうなのかなと思ったんですけど、これについて、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

（モニター使用）先ほどちょっとお見せしましたけれども、段差が確かにあるということで、図書館のほうと上の武雄神社前の駐車場とは、段差が1.8メートルくらいあるということで聞いています。それから駐車場との間に桜が植えてありますので、桜もこれを駐車場にすると、切らないといけないということもございまして、間には里道も通っているというようなこともございまして、今のところこれを整備するために若干支障があるので、もう少し検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

実際私も、難しいかなと思ったとですよ。確かにきれいに整備もされてあるけんがですねと思いましたが、20万人の人がこれまでお越しになった図書館で——。これまでの答弁を聞いていても、今後は落ち着いていくだろうというような見方をされていますけど、私も当然そう思いますけど。ただ今の状況を見ると、まだまだ落ち着くには、ほど遠いんじゃないかなというのもあるって、いろいろ懸念をしながらも、今回質問をさせていただきました。（発言する者あり）

その図書館については、まちづくりについて、今せっかく20万人、この図書館に人が来ているわけですよね。ですから、今せっかく来ている人たちを、今後どう活かしていく——どう活かしていくという言い方はおかしいですね。せっかく全国的に注目をいただいている図書館ですので、これを活かして、次の一手と言いますか、市長にその次の考えをお持ちではないか、まずお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はやる気をなくしました。きのうの谷口議員の千円図書館と言われて、本当にやる気をなくしました。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。やる気をなくするのはわかるんですけど、今、図書館にそれだけ全国的に注目を受けているわけです。

きのうの質問は、確かに私も聞きよって納得いかない部分は当然あったんですけど。この図書館、やる気をなくしているということですが、次の一手を打ちよる準備をせんといかんと思いますが、そこら辺について、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きのう、谷口議員さんから、議会で千円図書館といわれて、本当に情けなくなりましたね。政治家でもいろんな政治家がいるもんだと思って、本当に情けなくなりましたよ。ですが、ここで僕がやる気をなくして喜ぶのは谷口議員さんたちですからやる気を復活させますよ。私は図書館があって、先ほど言ったように、出来ることからやろうと思ってるんです。です

ので、例えば開館時間の延長をやる。

その一方で今度の6月、今月のアンケート、来館者のアンケートを見て、どういうことを来館者の皆さんたちが欲しているかということ进行分析する必要があると思ひまして、ただ今のところ、私のところに寄せられているのは、「食べるスペースが欲しい」ということ。あるいは、体験スペースですよね。あるいはミーティングする場所であるとか、触れ合いをする場所であるとか、子育ての皆さんと話をする場所とか、ていうのが結構寄せられていますので、そういったものをそこにプラスアルファでつけるのか、周辺に置くのかと、いうことはあると思うんですけども、いずれにしてもこの図書館のエリアの近くで、近接するか、ただその近くにするかは、これはよく議会でも相談を致しますけど、そういった施設は絶対必要になってくると思ひています。そのうえで、なるべく、特に市外の方々ですよね。お越しいただいた方が、喜んでお金を落としてくださるような、それが経済として、市民の皆さんたちに回っていくようなスキームをぜひつくりたいと思ひますので、谷口議員さんのような千円図書館とか、下卑た表現はぜひやめてほしいなと思ひます。

あんまり言うと、僕もむせますので、この辺にさせていただきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

食べるところとか、お金が落ちるところ、確かにそういうのもよいでしょうね。

私がいろんな市民の皆さんからの話を聞いた上で、周辺にシェアハウスのものとか、研究施設的なもの、何かそういったものを誘致してみてもどうだろうかというような話をうかがったときに、なるほどねと思ひよったわけですよ。

そこら辺も、武雄市図書館を中心とした、近隣のまちづくりには、ぜひそういったのを材料の一つに入れていただければなと思ひましたが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さすが、上田議員さんだと思ひます。

シェアオフィス、シェアハウスというのは、確かに要望が県外の方からよせられていて、私もこれは必要だと思ひています。ただし、ここはよく上田議員を始めとして議会と議論をしたいんですけども、図書館におこしになる方々が、もう1つ楽しんでほしい。滞在時間を延ばすという意味だと、シェアオフィスとシェアハウスは、ちょっとそれとは違うような気がしますので、場所的には。ですので今武雄市はこれだけ、上田議員さんを始めとして、議会の皆さんたちが発信をしてくださっていますので、このすぐ近接とか隣接ではなくて、違うところにきちんとある必要があるだろうと。もっと言うなら、例えば庁舎をすると

きに、例えば一角をシェアオフィスにするというのはあると思うんです。

そうすると行政等の連携ができるであるとか、例えば今度の市役所、議会が最終的に決める話ですけど、現在地に拡張建て替えというのが私のスタンスであります。そうなってきたときに、図書館は歩いて行けるじゃないですか。ですので行政と複合するというのが、シェア——特にオフィスですよ、ということが大事なんじゃないかなということは思っています。

いずれにいたしましても、図書館でまちづくりのエンジンになりつつありますので、是非、千円図書館が本当の意味での、ものすごく人を引きつけて、一流の価値を持つように、そういう下卑た図書館にならないようにと、私はしていきたいとこのように思っています。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

おっしゃるとおりなんですよ。

私は武雄市図書館は、すでにそのネームバリューを十分に持っていると思うんですよね。だからこそこの周辺が大事に活かされるべきじゃないかなと思っていますので、ぜひそこらへんの具体的なことを期待しながら、次の質問にいきたいと思います。

次に整備新幹線についてです。これは前回のモニター使用させてもらった時の画面になりますけど、既存の在来線ルートにとらわれず、新しい発想の上でルートを変更してでも、フル規格という要望をすべき。フリーゲージが完成したら、武雄温泉、佐世保間で、というようなことを前回の質問でもさせていただきました。

これについては、新鳥栖から武雄温泉までが、現在の事業認可をされている分、武雄温泉から肥前山口間の複線化も当然それに含まれておりますけど、これについては、先の議会でも市長とほぼ同意、認識を一致させたところじゃないかなと思います。

その時に、私もぜひ積極的に要望等を活動していこうじゃないかというような発言をしたかと思うんですけど、市長におかれましては、ぜひそれをお願いしたいということで終わっていたかと思いますが、これについて進捗等あれば、答弁を願います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

先週さっそく、出張旅費をやゆされる江原議員もいらっしゃいますけど、私は寸暇を惜しんで、杉原豊喜議長とともに、古賀誠前代議員にお会いしました。その時にぜひ高架でフル規格をお願いをしたいとおっしゃったときに、やっぱりいろんな課題をおっしゃいました。

1つは、過去の経緯ですよ。いったんフリーゲージで決めているのでこれを覆すと、非常に大きなエネルギーになりますよとか、あるいはこれを覆すということになると、他の新幹

線の予算に影響することにもなるといったことから、課題をおっしゃいました。ただし我々が特に杉原議長が気持ちを込めて説明をされて、沿線自治体が、今のフリーゲージだと反対をするという。現に隣町の大町町長さんを始めとして、公式に今反対をされつつありますので、それについてこれが高架でフル規格になると、踏切問題等も解消すると。それと杉原議長がおっしゃったのは、今低地なんですよ。六角川の真横に行くということになると、平成2年の北方町御出身の市議会議員の皆さま方はよく御案内だと思いますけれども、全部浸かってしまうわけですね。そういったことを、フリーゲージの問題点を議長を中心にしてお話をされたときに、やはり古賀先生もそれはそうだなと、いうことで議論の場にはのせてみようということはおっしゃっていただきました。私におっしゃったのは、森前代議士、元総理にも話をちゃんとしますということをおっしゃっていただきました。

やっぱり、うちの佐賀県の国会議員と違って、古賀誠さんは違うなと思いました。やめてからもまだすごいですからね。そのあと2時間後かな、また杉原豊喜議長さんと一緒に、町村信孝代議士のところに参りました。町村先生は新幹線の全体のプロジェクトチームの座長でありますので、同じことを申し上げたときに、「それはそうだ」とおっしゃいました。だから、他の新幹線PTの人にもちゃんと言っておいてくれということをおっしゃったので、同席していた用地交渉が得意な北川理事がきちんと話をしているということになっています。

ですので先ほど申し上げたように、我々が思っている以上にハードルは非常に高いということがありますが、佐賀県の財政負担を伴うことなく、将来的にはさらに難しい課題はあると思うんですけど、これも言い続けたいとだめだと思いますので、これは積極的に言っていこうと思います。

答弁が長くなって恐縮ですけれども、そのときちょうど全国市長会がありましたので、そこに出席をしたときに、これはどこかとは言いませんが、ある市長さんが、沿線自治体の市長さんが、ぜひそこも、自分たちは止まらないけれども、通るから、ぜひ高架フル規格で、市長は発言をしてほしいということをおっしゃって、もしそれがいけるようだったら、沿線自治体でそういう会を作りなおしたいということもおっしゃっていただきました。

その市長さん、相手がある話なので名前は言いませんけど、「もし、それが出来たら会長になってくださいますか」と申し上げたら、喜んでなるということをおっしゃっていただきましたので、単に我々だけが、例えば嬉野や武雄だけが盛り上がるのではなくて、沿線自治体をいい意味で、巻き込んだ形でやっぱりこの発言はしていくものだと思います。ただ古川知事がフリーゲージと、しかもこれ以上、県民負担が増えるということであれば、それはのれないと明確におっしゃっているの、県民負担が増えないということもあわせて、我々はもっと言わないといけないだろうというように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

### ○3番（上田雄一君）〔登壇〕

佐賀県選出の国会議員さんも、ぜひ、がんばってもらいたかところですね。

先日、私も石破さんの講演を聴きにいったときも、まっすぐ走る新幹線でなからんばいかん、という表現をしんさったですもんね。まっすぐというのは、私が聞いた感覚でいけば、博多っちゅうか関西方面から、ずーっときてまっすぐ長崎まで行ける、という意味じゃないかなと思いつつ聞いてはおったとこやったとですよ。ですからイメージ的には、新鳥栖からでもフル規格でこういうルートと。これ前回の質問でもしましけど、武雄温泉から佐世保までを、できればフリーゲージでやればいいじゃないかというところの話です。

先日、別の話を聞いたので、これについて市長がどう思われるかなと思ったのを、御紹介したいと思いますけど。久留米大学の矢野教授、市長御存じですか。

〔市長「知ってますよ」〕

矢野教授の講演の中で、物流新幹線の構想を私も勉強をさせていただいたんです。その構想というのが、博多からずっときて、筑後船小屋から有明海沿岸を通って武雄温泉に接続すると。これがなんでここを経由するかというと、ここに佐賀空港を経由すると。人だけでなく物流の新幹線構想という話を聞いたわけです。話も壮大やったです。なるほどと思うところもいっぱいあったけど壮大な話で、筑後船小屋から佐賀空港を経由しながらこう武雄温泉に接続するという、構想自体はなるほどな、と思えるところはいっぱい、私は感じたんですよ。

これについて市長の見解はどのように思われるか答弁願いたいと思います。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

その可能性をおっしゃっていただく分には、きのうの千円図書館みたいなものと違って、前向きにおっしゃっていただくという意味では、すごくそれはいいと思うんですけど、ただし我々も実務家ですので上田議員もお気づきかと思うんですけど、このルートだと佐賀市は通らないんですよ。佐賀市のど真ん中を通らない。すなわち消費市を通らないという新幹線が、果たして佐賀空港だけで物流のものとなり得るのかという問題とか、これを一たんやるとまた時間がかかって、ちょっとこれ事務方に聞いたんですけども、先生もその場でおっしゃったかもしれませんが、平成34年開業予定の新幹線がさらに遅れていくと。

要するに、予算というのが年々歳々決まっていますので、そうなったときに、すごく理念としてはいいんですけど現実問題としてどうかな、ということがありますので、そこはちょっと、いい話とは思いつつもね、予算の兼ね合いとかいろんなことを考えたときにはちょっと厳しいんじゃないかなと率直に申し上げたいと思いますが、ただしこういう議論が出ること自体は非常にありがたいと思っていますので、そうやって、やっぱ新幹線って僕は盛り上が

っていくと思うんですよ。

ですのでぜひまたね、私はこの久留米大学の先生にはお目にかかったことはないんですけども、ぜひお会いして薫陶を受けたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私は再三この場で申し上げているように、この青いラインのほうがずっと頭にあって、筑後船小屋から空港経由のこのルート聞いたときに、全く私の頭の中になかったもんですから、なるほどな、と思いながらちょっと皆さんに御紹介をしたかったところでございます。

次に入りたいと思います。

「スポーツ振興について」に行きますけれども。

これは武雄中学校の校門の写真です。武雄市立武雄中学校。これですね、ここから先は物すごく広くはなっていますが、残念ながらここだけは物すごく狭かですもんね。なかなか入りにくいところではあるとですけど。

この武雄中学校が今、大規模改造計画の真っ最中で、これは模型図ですけど、今ようやく校舎ができあがっています。管理棟は今からですかね、あれはどがんですかね。そこら辺、計画——この際に御紹介を、今の段階での計画を。今どこまでいっているかという、そこら辺を御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

武雄中学校につきましては今改築を進めておりまして、本年度は大規模改造の第2期分がございまして、今年の夏休みには管理棟内部の改造ができるというふうに思っております。その後、武道場の改築、26年度になると体育館の改築ということで進めてまいります。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

今説明があったように、管理棟がこれになりますね。これの内装が実施されて、武道場はここになるかと思うんですよ。ちょっと切れていますけど、写真が。今の計画からいくと、これが体育館で、ここが校門、こう入った所ですね。これが航空写真を物すごく拡大した版です。ちょっと見にくいですので、こっちがよいかな。これがテニスコート。今、これが体育館で、ここは駐車場で、ここに今テニスコートが設置されています。これは今、仮設の仮設みたいな形になっているので、ここに今、2面つくられています。



今武雄中学校のテニス部がどういうふうなことをやっているかという、部員が全部で90弱ぐらいおるとですよ。男女合わせて。2面で90弱じゃどうしようもなく、今、男子部員がここを使うときは女子部員が天神崎、女子がこっちを使うときは男子が天神崎。1日交代か曜日で交代か、うまく連携してやられているようです。結構人間が多いです。ここ、よく見ていただければわかるんですけど、テニスコートに入りきらんで、こっちの砂利の所で練習をさせられる子もおるわけですよ。こういう流れの中で、テニスコートが計画でいけば、ここにできる予定になっています。今の体育館のある所にですね。これが今、3面予定になっています。まずちょっとお伺いしたいんですが、これは天神崎のテニスコートになりますけど、オムニコートになっています。別の角度から見るとこういう感じです。武雄町内の中学校なんですけど、この天神崎が、ここがオムニコートで武雄中学校もオムニコート化すれば、武雄町内に8面オムニコートができるような計算になるんで、こんなに8面抱えられるところなんか、なかなかないんじゃないかと思うんですけど、武雄中学校のオムニコート化というのは検討できないものか、まずそこから答弁をお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

古賀教育部長

**○古賀教育部長〔登壇〕**

中学校のテニスコートにつきましてはクレークコートでこれまでもやってまいりましたので、武雄中学校につきましてもクレークコートでお願いしたいというふうに、今のところ考えているところです。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

やっぱり、そうですね。クレークコート——ただ、天神崎がオムニコートであるものから、中体連の時なんかは結局ここばかり、皆さん使うと思うんですね。中体連とか他の各種テニス大会の時に。ここが5面、せっかく武雄にあるので、中学校まですれば8面になる。8面になればかなりの大規模な大会もずっと武雄に誘致できてくるんじゃないかと思って、御提案をさし上げたまでなんですけど。それではこの中学校の、ここの3面ですね。現在の計画からいくと、ここの部分にテニスコート3面なんですよね。イメージで私勝手に略図でテニスコートチックな感じで線を引きましたがちょっと見づらいかもわかりません。

ただこのテニス部が今現在、男女合わせて90名。22年の9月議会でも私一度、この質問をさせていただいたことがあります。そのときの部員数も90名いたわけですよ。ですから3年ほど経っても、部員数に上限がほとんどないと。話を聞くと、多少の増減はあるけれども、大体男性50とか、女性が30後半。トータルすると大体男女合わせて90前後になりますとお話を伺っております。こういう状況です。この写真はあくまでも男子部員だけですので。こ

ここに、私は重箱と呼んでいましたけど、正式名称、重箱ではなかですよね。正式名称は何でしょうか。私たちが中学生の頃は、重箱堤っていいよったですもんね。ここをカットしてとか、埋め立てをしてでも、ここに4面。もう1つ面をつくればどうかと思うわけですよ。

もっと言うなら、こっちに合わせて、こう4面とれば、ここまで駐車場にできると思うとですよ。今、この重箱堤の利用が、これまでは農業用水とかいろいろ使われていたようですよ。今もう現在、ほとんど防火水槽というような位置づけでしか使われてないという話です。ですので、防火水槽となると中継局的な位置づけになりますから、こんだけの広さはいらんと思うとですよ。よく見ると、ずっと見ると、プールの何倍あるかなというぐらいの広さですもんね。テニスコートに予定されている敷地面積とほぼ全く同じくらいになっていますので、これをぜひ前回22年の9月議会もちょっと部活のあり方を見直してみないといけないという答弁をいただいていたかと思いますが、これについて、その後どうなるか答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

重箱堤を埋め立てて、テニスコートを4面に。それから駐車場も多めに確保するということについて提案があったのは、お聞きしています。現在のところ、重箱堤を埋め立てなくても駐車場につきましては85台分確保できるというふうを考えておりまして、教職員のかた、あるいは支援していただく方々の数が現在53名ということになっていますので、お客様方の駐車場を含めて十分な数字ではないかなと思っております、テニスコートにつきましても、従来は規格よりちょっと小さいコートだったと聞いておりますけども、今回はフル規格で、きちんとしたコートがとれるとなっていますので、今のところ堤埋め立てまで広めるということについては考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

テニスコートがフリーゲージじゃなくて、フル規格でよかわけですかね。テニスコートのフル規格は3面ですか、4面ですか、3面でしょ。3面やったら、90名でどがん分け方ばすつとですかね。男子が50ぐらいで、女子が40ぐらい。だけんが、3面やぎですね、なかなか大会とかここでしにくかと思うとですよ。次行きますけど、重箱が——。重箱堤の写真を撮ってきました。こいが中学校の南側から、入り口のちょっとあるとですよ。ここに入るところの。そこから入ったところですよ。これシャッターですよ。シャッターよか内側が草の生えとうとですよ、もう。これどがんやって刈るとやろうか、こんな状態ですよ。

写真には写ってないですが、ここの水質もかなりよんどどうです。こっち側も、これが体

育館ですけど、体育館の内側もこういう状態ですもんね。この重箱堤、今どういう利用をされているのか。中学校で何か利用されたりとか、やられているんでしょうか。そこを確認させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

中学校で特に利用しているということではございませんけど、火災等の場合には防火用水等で使えるのではないかと考えます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

火災等で防火水槽使う、というとうようわからんとですよ。私この地区担当の消防団ですもんね。ここに給水ポンプの点検をするときは、ここから水を汲んでここに戻してということのはしよとですよ。ただ、あまりにも水質と汚泥がひどか感じですね。ただ物すごく広かわけで、給水ポンプに物が詰まったり何たりするくらいの、かなり——。清掃というわけにもいかんくらいの広さのあるわけですよ。今後この重箱堤、このまま放置をされるかどうか。どういう計画を持ってられるか、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

このため池につきましては、所有権は地元の方にあられるというふうに思いまして、教育委員会で所管しているわけではございませんので、現在私どもの方でどうして欲しいということについて、申し上げているわけではございませんので、ただ、管理上困った分があれば、申し入れをしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ですから、いろいろ考えがあるかと思いますが、重箱堤を、例えば埋め立てて中学校の敷地として用いるというような考えをぜひもっていただければなと思いますが、これについて改めて御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは僕はしないと思います。先ほどありましたように、水槽としての位置づけがあると

ということと、これは区の持ち物ですので、区が例えばこれを教育として――。多くの方々見られていると思いますので、それをこっちから言うというのは、基本的にないですね。というのはやっぱり、贅沢な質問だと思いますよ。それよりも、もっと困ったところに、これもし埋め立てるとなると、我々がするとするなら予算を投下しないといけないわけですよ。その予算があれば、本当に困っている子たちに僕は使っていきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

中学校のテニスコートに使うのも十分、教育の予算としては私はいいと思うんですけど、わかりました。

それでは次にうつりたいと思います。

次に、スポーツ振興、BMXについてでございます。これも前回の質問でさせていただきましたけど、これ見にくいので大きくすると、当時のこの記事に要約すると、来夏、今度の夏までに建設地を決めて15年までの完成を目指すというような記事です。当時この記事に出たのが、計画候補地として競輪場に近い御船山山麓であったり東川登町だったり北方町だったりというような所が、この記事には記されております。ただ前回の――今が6月議会ですかね。3月議会のときに答弁としては、競技人口、愛好者人口がまだまだ少ないことから早期の整備は厳しいというような答弁はいただきました。ただし、その上でも、子ども用のBMXを含めて可能性を探っていくというような答弁をいただいたところであります。このところは、競技人口、愛好者人口というのが、早期の整備は厳しいということですけど、この記事によりますと、市長がコメントを出されているようなとこなんですけど、今後、BMXは世界的潮流になっていく、将来はオリンピック選手の合宿地や練習場に使えるようにしたいというふうコメントを出されているようではございます。

その上で、そのときの答弁の中で競輪の――、要約しているので若干ちょっとニュアンスが違うかもしれません。違ったらぜひ訂正をお願いしたいんですけど。

競輪も今のままの対応やあり方だと難しいとおっしゃっています。革命的な改善を今、国を巻き込んで議論をスタートさせているというような話をいただきましたが、その後、これについて具体的に、相手があつての話ですから、言える言えないが当然あると思いますが、言える部分だけでもぜひあればお聞かせいただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

BMXも含めてなんですけれども、革命的改善というのは、これはさすがに相手を巻き込む話ですので、ちょっと言えませんが、所管の経産省と話を始めております。ですが、私

が申し上げたことでも、いろいろな課題とかいうのがありますので、もう少し時間が欲しいなというふうに思っています。これが今の段階で出たとすると、世の中大騒ぎになります。ですので、ここは少し時間を欲しいということですね。ですので、今我々が競輪事業所、一生懸命やっていて、いろんな繰越金とかも、すごく頑張っているんですよ。一方で、今の延長線上にいても競輪は先細るばかりですので、そういう意味でBMXであるとか革命的な改善と、これは確かに申し上げましたので、もう少しやっぱり時間が欲しいなということをおもっています。

いずれにしても、そんなに長期の議論をさせるつもりはありませんので、仮になったとすると、できることから武雄が最初にやっていくという段取りになっていこうかと思えます。やっぱり言えることと言えないことってあるんですよ。最近それを学びました。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

私も市長も年は40を過ぎて、ようやくそこを気づいたということですかね。

こういう質問を出しているところの理由は、こういうところにあるんです。一宮競輪が廃止ということで、1つの新聞記事ですが、6月3日の市議会で谷一夫市長が会見を行い、正式に廃止が決定するというような記事です。もう6月3日過ぎていますので、6月3日に廃止決定というのが出ております。ですからこそ、武雄競輪もなんとかしていかなばいかん、というところがあつてのところでございます。

過去にもこれまで廃止された競輪場がこういうふうに、門司、甲子園、西宮、花月園、琵琶湖、観音寺というところで、このへんが廃止されたというようなところらしいです。（「松坂も廃止」と呼ぶ者あり）そうですね、松坂競輪もその方向ということですよ。今どこも一生懸命やっちはいると思うんですけど、なかなかこの状況がですね、これが昔の写真にはなるんですけど、やっぱり武雄競輪も、まずはできるところからというところでは、ナイター競輪とか、モーニング競輪というところに取り組んででも、他所との他場との差別化っていうのをはかっているかと、いかんとじゃないかなと思うところであります。

ナイターレースに関しては、全国に10場ありました。今現在実施されているのが。しかも四日市、小倉に関しては、通年開催、年中ナイターしかやっていると。あとのところは、試行的にナイターをやったというようなことですね。小倉、前橋ではミッドナイト競輪といって、夜中までしようしかですね。夜中までインターネットのお客さん対象にだけやっているというところでもあります。ナイターレースに関しては、競馬は全国で6場。有名なところでは大井競馬場とかですね、そういうところかなと思うんですけど。競艇に関しては全国5場。うち4場は、小倉競輪や四日市競輪と一緒に、通年で開催している。オートに関しては2場やられていると。一方モーニングレース。通常は、お昼前くらいから始まると

ですよ、第一レースが。11時くらいに始まる所を、9時ごろ始めて、早く終わらせる。要は他の開催場のインターネット投票とかと、かぶらないようにやられているというのが、岸和田、高知、別府、防府、豊橋、佐世保と。ここが試験的にやるという話です。これに比べると競馬とかオートは、どうも試験的にやられている経緯もないようなんですけど、競艇だけが、芦屋、徳山、唐津は9時前後から始めているというようなことを、やられています。こういうのを、武雄もぜひ取り組むべきじゃないかと思えますけど、これについて答弁お願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

溝上営業部長

**○溝上営業部長〔登壇〕**

ただいま上田議員さんから御提案がありましたけれども、確かに全国、ナイター競輪とか、モーニング競輪が行われています。基本的には、目的はナイターでいいですと、開催時間をずらして、仕事帰りのお客さんを獲得する。先ほどの、モーニング競輪については時間をずらして、電話投票の売上を図る。そこらあたりを考えて、武雄競輪で考えた場合、これをするためには、今までと違った開催経費、それと新たな設備投資等もかかってまいります。それで一番問題なのが、周辺人口ですね。そういうことで前回、昨年だったと思えますけれども、本場ではなくて場外発売でナイター競輪を2日間実施いたしました。そのとき、たけ丸サンデーと組み合わせて行って入場者数については結構あったんですが、売り上げ的には予想よりは少なく、武雄の場合、効果はあまり望めないのかなと今考えております。しかしながら、このまま行くと、先ほど市長からありましたように先細りが考えられますので、武雄競輪では、まず今年の夏の開催で、発売時間を11時から10時、1時間早める。「ちょい早競輪」ということで、こういう言い方で開催経費をかけずに試験的にやってみて、様子を見てみたい。

これについては、お客さんのアンケート等で、そういう意見もありましたので、そういう形で今回考えて、これからもあまり経費はかけずにですね、売り上げ向上等を図れる方法を模索しながら、競輪事業については継続をしていきたいと考えています。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

ちょい早競輪ですね。いまのネーミングでも、ちっとはやるとやなかですか。よかネーミングと私も思います、ちょい早で。1時間早めるというのも、選手からすればそこに、自分の自転車のピークを持っていかんばわけでしょ。たぶん、その1時間、私たちのお客さん側からの立場の1時間やぎ、1時間早なりたいというごた風やろうですけど、選手のほうから見ると、1時間ってたぶん体調管理が、いろんなところに影響が出てくるかと思えますの

で。ぜひ選手の身も考えてもらって、できれば、このちょい早競輪もぜひはやらせてもらうように、お願いしたいと思います。

続きまして最後、BMXに入りますけど、先日、サイクルピア岸和田BMXコースというところに視察に行っていました。これが入り口ですけど、入り口を通れば、こんな感じになります。これが競輪場です。この建物がクラブハウスです。ここがBMXのスタート台。岸和田競輪側から見れば、ここがBMX場です。こっちがメインスタンドで、もともとここには特観席があったらしいですけど、岸和田競輪は、この特観席が耐震にひっかかって、耐震補強をせんといかんということで、思い切ってそれをなくして、ここにBMX場を設置したらしいです。これが、コース内部から撮っていった写真になんですけど。結構、土嚢を積まれて、コースをつくられていました。こんな感じですね。このカーブのところは、アスファルトをしかれて、やられています。スタート台がこれですね。結構、これは高さがあります、こんな感じですので。これがさっき、入り口、入ったところの、逆側から見たスタート台になるんですけど。

このBMXがですね、視察に行ったときに、ちょうど全プロというのがあって、この岸和田競輪はですね、競輪事業の一番の活性化になるのが、ビックレースの誘致だと思うんですよ。この岸和田競輪はBMXをネタに、全プロを3年間誘致してるらしいです。BMXと競輪が一緒にできますよ、というのをうたい文句でやられているそうなんですけど、ここにいる方はBMXに出場される競輪選手の皆さんたちです。ですから、この辺の人はみんな選手の人です。ずっといったら、武雄からも選手が2人BMXに出てました。こちらが古川貴之選手。こちらが松尾玄太選手。この2人がBMXに出て、これ古川選手です。結構楽しそうですね。こっちが松尾選手。この選手も結構楽しそうな顔をしてやっています。このBMXはやっぱり選手の、バンクとは勝手が違うのでなかなか苦労されてましたけど、いざペダルを踏ませると、やっぱ違うなというスピードでやられていました。

こういう競輪事業の活性化のためにも、このBMXというのをまず取り組むべきことじゃないかなと思うんですけど、まずこれについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

BMXにつきましては、前回3月議会で公認コースについては考え方等出ておきまして、そういう中で、今後は競輪場全体の施設の在り方等を考える中で、子どもたちが気楽に遊んだりできる、子ども用の施設としては整備も可能かなというふうに思っております。それで最終的には競輪選手の底辺拡大。そこらあたりから考えたほうがよいのかなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

競輪選手の底辺拡大。まさにそうです。

今回見たときに、子どものレースもあったわけです。これ全部子どもたちです。はっきり言って、大人よかこの子たちのほうがスピード速かごた感じがあったとですけど。このように子どもさんたちのほうも、結構さまになったレースをしようとするんですね。だから子ども用というような位置づけをせんでいいんじゃないかなと、BMXに関しては大人も子どもも両方兼用で、というような感じで考えたほうがいいんじゃないかなと。ストライダーとしてはまた別ですけど、BMXに関してはそういうふうに思いました。これがですね、BMXをしてるお客さんが、レースがあつてるときは一切このBMXはやってないんです。あくまでも販売時間中にこっちをやって、こっちがレースになると、こっちにみんな釘付けと。そういう流れで、競輪のお客さんの拡大にもつながるんじゃないかなと、いうように思えるほどであります。

ですから、子ども用の——。前回の3月議会での答弁でも子ども用のBMXというような話をいただきましたけど、子ども用と限らず、こっちやったほうがいいんじゃないかなと、取り組んでいいんじゃないかなと思うんですけど、これについて改めて答弁をお願いしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

BMXにつきましては、まだいろいろ意見等もあります。そういうことで、いろんな方の御意見をお伺いしながら、今後決めていければというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、競輪担当と調整をしてますのは、実際BMXをつくるのはお金をかければできる話ではあるんですけど、例えば場所の問題であつたりとか、あるいは本当に武雄であつて集客が見込めるかどうかというのは、すごくシビアに判断しないとイケないと思うんですね。ですので、その時間を欲しいということと、もう一つはたぶん競輪場そのものに今本当に魅力があるのかと。箱として。なんで図書館が——、千円図書館とやゆされる谷口議員みたいな方もいらっしゃいますけど、それだけ集めているかということ、あの空間にやっぱり行きたいと。あの心地よい空間、居心地のいい空間に行きたいということで、千円じゃないんですよ、あの体感価格は、失礼な。ある意味プライスレスなんですね。ですので、それが今の競輪会場として、空間としてあるのかと。いったときには、たぶん一部のマニアの方、前の図書館と



同じですよ、しかなかなか足を伸ばそうと思わないと思いますので、そういう意味でいうと、庁舎でも私は居心地のいい空間を追求するというふうに申し上げましたけれども、それをぜひ民間の方と組んだ上で、そこの再構築をする必要があるだろうと。そうすると空間に魅力が生まれれば、図書館でも上田議員がいきみじくもされているとおり、じゃあ人が集まるから、次じゃあ何をしようとなりますので、順番が少し今まで、僕が悪かったんですよ、逆だったかなと。あの図書館をやってみて非常に勉強になったのは、魅力的な空間があれば全国からやって来ると。それがブランド価値を押し上げていると。ですので、けて千円図書館ではないんですよ。僕もしつこくなりましたので、この辺にさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

BMXの質問してるのか、図書館の質問してるのかわけわからんごとになってきたとですけど。（「千円図書館」と発言する者あり）

これ、岸和田のBMX場の資料関係を私たちも色々もらいましたし、質問もさせていただきました。これに関する費用面も当然ですけど、これの運営のところがですね——。こういう看板収入を結構とられているんですよ。コカコーラから年間いくら。ここの看板を、これで年間いくらというのが、こういう収入もBMXの運営のほうに回されています。ですから武雄も、このコースの設置もですね、ここが滋賀県から泥を運んできたというような話なんですよね。2県をまたいで。武雄やったら、そがんことせんでよかとやなかかなと思うところもあるので、こういうノウハウをぜひ、今一度研究をしていただいて、ぜひこのBMXを考えていただきたいなと思っているところでございます。

再度強くお願いして、最後になりますけど、武雄市の中尾太三さんと。この方がBMXで今度世界選手権に出られるそうです。武雄市の方です。ぜひ武雄でもこういう世界選手権に出るといことで、中尾さん、ぜひバックアップはしていかんといかんじゃなかかなと思いますが、これについて市長、どのような見解をお持ちか、最後に答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

新聞にも載っていますけど、中尾選手ですよ、武雄市民の誇りだと思います。ぜひ、やっぱり彼のもう1人の選手として、市民私たちが思ってもらえるように積極的に応援したいと思っています。本当にがんばってほしいなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

最終的にはこの人も当然頑張ってもらいたいですけど、この人の息子さんもレーサーですもんね、BMXの。ですからこの息子さんが、ぜひまたこの同じ舞台に立てるように、ぜひこの中尾太三さんを応援していきたいと思って、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。